和蘭人ヂ申長別段風説書

磐溪先生自写

洋学文庫
文庫8
A 124

75
118
175

安政三年七月

和蘭人ヨリ申上ル別段風説書

大槻盤渓先生

大槻文庫

安政三年七月

初篇人名別五風記書

槐渓先生自寫

大槐氏藏

大槐文庫

根岸 大塚特製

千八百五十六年　安政三年　己未　風説書

和蘭國

一和蘭國王當年より連て國中教禮法を和親し
商法航海等を弥盛昌敬ひ
一千八百五拾七年　丁卯年　の初和蘭國と亜墨利加衆
國と條約を極和蘭法屬縁薬と滝湊小彼國こし
コンシュル官名を置き條元極む
一右國佛と條約御開西國をよびベルギー國と元極む
一千八百五拾五年第六月　丁卯年四月　こ来和蘭國王の

宮内庁書陵部

嫡子オラニエーのプリンス爵名地中海に向ケ出航カテイキス
ポルトガル王并マルタ地名の地名
和蘭國に陶器いとし
一同人名を比行程中姓名を厳密隱ス
一千八百五拾五年の末ポルトガル國王和蘭國に等藤
の各街を巡見ス
和蘭領印度の屬地
一第五月廿日　千八百五年四月廿六日　吸烟草ハ和蘭領印度の專賣
ダッパヒット　三名

一前の專賣トモルファンデイ　千八百五年第四月廿三日　千八百五年四月廿六日　和
蘭領印度の諸用ス專賣ハ行ハレ上四月廿六日　千八百五年四月廿六日
前專賣并ニ專賣一回和蘭船ニ乘ス人名
ロットルダム船ニ小蒸船本國に向ケ出航ス
一前專賣并ニ專賣第九月一日　千八百五年七月廿日　分第十月廿五
千八百五年九月十六日　モリッケ島を通過ス
一奉行所のセケレターリス官名アプリンス人名第國王の命に因り
和蘭領印度のラード官名ハ第ハ
一千八百五拾五年第六月四日　千八百五年四月廿日　爪哇の主ハマシー

アーシー人名第七月五日（千八百四十六年六月廿六日）跡職に登り玉ふ

一当年伝哇亜細亞地中の人民壮健の様体にて太コレラ病名麻疹病名流行致候アポイナ地名

玉ふ色の徒多く死に玉ふ

一此年欧羅巴風説に曰く未だ地中列国に天変八千八百

四拾四年第七月（千八百四十四年七月）テルナーテ地名の地震に

有り五万ギルデン銀貨名の損亡に及ぶ第三月（千八百四十五年三月）

の初旬コロートサギール島の火山破裂し数多の

國々殺、タラーカン地名破壊致死亡四千人に及ぶ

一和蘭海軍印度海岸海賊探索として航海

いたす

一和蘭國海軍洋海賊を捕縛又奴僕を養入

所有者を解放し玉ふ

一右之和蘭領印度中物騒に成り

一此年中パレムバング地名を不穏驚に付一揆ラデイヤテイヨンアム

一揆の自様

徒に和蘭政府に従伏致を地寧謐に成り

蘭利太尼亜領印度

一此年ヨリ英国ハ地名ヲ以テ大ヲ国イラワッディー川名の傍ニ在リ石岩ハ長サ二デ六里数ヲ十餘里ニ
亘シテ表面ヲ成シ石山尾深山出尾アリ

一千八百五十五年の末（寅年の末卯年初ル）廣國ニ於テ英利
太尼亜國の奉行ヤンボウリング人シヤム國王ト商法筋
文書ヲ結ブ

一カルキュッタ地名ヨリ暎吉利里数五百里ヲ隔テ（ルニ）ヨリ
地名ヨリ於テ千八百五十六年の末一揆起テ土人ヲ誘利
太尼亜人数多殺害ス故ニ土人ハアルソ上ヨリ

ケイラアン地名ヨリ小三千人程ヲ集ル

一カルキュッタ地名ヨリ英吉利ヲ改ル色の軍兵一揆の張本を
降伏セシの術計ヲ以テ一揆ヲ駆撃ス
此年千八百五十六年第三月（当天保年二月ヨリ）英利太尼亜
領印度の北東ニ於テ新領ヲ得ル

一英利太尼亜領印度色印

シンガポーン
カープグーデホープ
此ヲモ新領ニ入ル

一アウスタラリー地名ハ小樣ニ金坑ニ利潤深山ニ多シ

支那

一千八百五十五年第七月 支那年号六月ハ 町家乃樣式之為ニ
徒ニ体裁ニ慶ル事ニ於テハ国人ニ為事全ク
之ヲ為ス事ヲ知ラザル
一北国南方ニ騒乱ヲ起シ其之ヲ治ル能ハズ全ク徒黨
の面を生ジ其種人数刑戒ハ多ク
一国中ニ於テ通ル河川ハ多実ニ多シ東洋海
并ホンコン近辺ニ英吉利并亜墨利加軍船頻リニ

海賊征討ハ年々ニ行ハレ未彩色第名殺
一近日ハ上海安寧ニ至リ商賣再繁昌
一接接乱ハ打前敗走ス斉御ハ一分ニ安居遊楽
トキーン地名ハ并コインセン地名の商賈多キ地ニ住ス
大額利太尼亜并イールランド
一千八百五十五年第四月十六日 支那年号二月三十日 合国廿一日 四月ヨリ
抑朝西国帝并王妻ニ一回英吉利国女王を
訪問ス
一同年第八月 支那年号六月ハ ポルトガル国王并オボルト地名ハ

ヘルトク名爵英吉利国ニ来ル往回年第十一月年号九月十日の来サルデイニー国王回国ニ来ル

一昨年第五月花ニ十八日バラクラーン地名ト云ル地名との海中ニテ大ラーフ抜船ニ限ル第四月廿四日年号三月ニ首尾徒然敵ハ

一亜墨利加合衆国并アウスタリー地名小移住の人数千八百四拾四年年号中ハ千八百四拾四年ニ寅年ニ少ク多ク

ナリ

一ベルギー国王ハ八百七十六年の初ハ年号ハ嘉永元年ニ英吉利国ニ

来リシ

スウエーデン。イールウエーケン。デーネマルケ。

一来ル三月ニ来ル三月ニ争論ニ付物合ッ中立致ス

一スウエーデン、イールウエーケンの国王千八百五十三年第十月廿二日年号六月廿日西方ニ国ニ條約ヲ極ル大條約ヲ領国ニ多他ニ西ニ懐ニ多ク又領地五ニ交ル

ヲ来ル三月ニ所ニ来ル三月ニ是ヲ拒キ大ニ抑西

帝ニ英吉利女王ニの拒ニ約ニ

拂朗西國

一千八百五拾四年 嘉永七年 拂國帝を討人と為殺合戦を
ロシヤ国度々攻寄ロシヤ台捕刑に處す

一先度ろしあ記に記し通千八百五十六年第五月十四
嘉永三年 三月廿六 奉和睦条約

一四月 三月四月 ポルトガル王并オホルト地の人ルトガル爵
ろしあ

拂朗西國の帝ろしあ

一千八百五十七年第八月 嘉永七年 七月 英吉利女王并
一族ろ者拂朗西帝并王妻を見る為ろしあ

一四年第九月 嘉永七年 七月 サルデイニヤ国王 アイルトル エマニエル
王 ろしあ 拂朗西國ドを為英吉利国へ向ケ出航

一拂朗西帝ろ妻を八百五拾六年第三月十六日
十日 男子出産ろしあ

一千八百五十五年 嘉永 拂郎西國と墨国と和親し
約定ろし交易を立帝

一墨国乙國南西に於て千八百五拾四年 嘉永七年 ろ出産
ろしあ

一獨乙國ハ亜墨利加國ヘ移住致シ其為ニ時ハ別
減少致シ

伊斯巴泥亜國

一伊斯巴泥亜國收納組ニ付今揚教ヲ行ヒ
一當第二月當年二月ニ付ヲ移住ヲ致シ
一カルリステン人名黨ニ一揆ヲ起シ官軍諸所ニ
於テ打勝ヲ
一千八百第十一月十九日カルリステン黨の一揆
一度ニ屋伏致シ官軍ニ為入砲殺ス

一千八百六拾六年　ヒリッペイン諸島マニルラ地
ミホイリー港ヲ　シエル港サントヲ港ヲ交易ニ
お開出入運上ニ役所を設ケ
ポルトガル國
一千八百六十六年第五月中　火山フエシフイエスの
地中震動ス　微有ル所ニ坑口八ヶ所ヲ
火坑ヲ流出　是ハ流出ス八日ニ間長程軽ク火山
ヤ
ギリーケンランド

一支国不法多、賊盗有シ為ニ風俗ヲ害ス

一千八百四拾四年第十月 薩摩ノ国 改革ヲ為ス

都児格国

一千八百四拾五年ニ初テ 寅年未 亜細亜都児格
国ノ一ツニスサ 府名 地震ニ大ニ破壊シ石造ノ家
屋ヲ一軒モ無キニ至ル 府中ノ岩山ノ岩石砲出破壊シ
府中ノ家悉崩レ出

一亜細亜中破壊シ地ヲ匍匐欧羅巴ノ東方ニ於テ
地震、甚激シ

一千八百四拾五年第七月 薩摩ノ国 地震ヲ為ス

一レケンヒスカッブ 都児格国レケンヒスカッブ 官名 テイリポリー 地名 ヲ於テ千八百
四拾五年 薩摩ノ国 七月ニ 一揆起リ官兵ヲ
将ニ一揆ニ以交接戦二日ニ及ビ都児格兵敗走
或ハ死或ハ囚ヒトナル

一都児格国先度ニ風説ヲ為テ テイリポリー 地名 ヲ一揆敗
シ也ニ有リ

一エケイブテ 地名 ヲ於テ ヲオンドルコーニング 官名 ノ心配ヲ為テ イシケ
ニエール 山川ヲ開キ或ハ石炭坑ヲ業ヲ用ヒ為ニ少ク巧シ
茅ヲ業ヲ用ヒル者

若は呼集紅海西地中海の間に位エス決定仏国と
両海の通路を得たる年業の用意為る所
一和蘭政府と彼地に至るトインケ三ール（訳前の名）七国、
分来りインケ三ールの為上席に撰エケイブテ地し
オンドルコーニング（官名別）を変印度海に駕羅
巴国との通弱を図き決大事の業を立
元年報告

魯西亞国并都思格国

一此国并西方と国と和談なし各先肝要と考上

子二月廿日

一当第三月三十日当辰年（パレイス 仏国西 二月廿四日 都府）に於て法国
人と眼前にて和談と書面調印なし砲発なして
国中に広く知れ渡り極て立上り熱心未と
表向に成り立て時節あり和国
一先度と別段に成り立て長崎に於て蘭国
帝ハセバステポル（魯西亞の地）の南岸に千八百五十六年第廿
八日十月廿日国書を押印せられ国と
一先度の別段風説と（十月廿日）千八百五十六年第四月

支那年号三月以回国才ゝ海軍船ニ東海并白海ヘ向ヒ出船終ニ白海の港を繞切て右回所に於て枯死ス

一東海のボターニー江ニ至シフレイスタット府名ハ空丸ニ打崩レ且又フローホルグ港ハ千八百七十五年第十二月支那年号十月以回国才ゝ軍船十四艘を空丸ニ打崩ス

一千八百七十五年第十月支那年号九月以彼南海の備を再ビ引揚回国ス海軍ハ迚て漢堡利国港ニ碇泊ス

一曾西亜国の南方ハ接戦ハ絶ヘたるヒ

一キリム地名の拂朗西軍将ゲチラール官名カンロヘルト人名千合百七十五年支那年号六月以来ハ病ヘたるヒゲチラール官名ヘリスヒール人名と共ニ使交代致シ

一千八百七十五年第七月支那年号三月以サルヂイニー島名の兵一万七千人バラツクラア地名ゆゑ致敗ヒ接戦ニ利を失ヒ

一千八百七十五年第七月下旬支那年号四月下旬回国才ゝ越ヒ一千ケルツ地名并イーニヤルに到りたる此地回国才ゝ曾西亜方ニ至ル右ハ戦ヒ蒸気

船焼打ニ成ル所諸藩和庫焼失砲台
石門奪ハレ清国ハ佛蘭西人破壊シ西国其ヲ
佛西英蘭氣軍艦四艘豆医船ヲ以テ四艘ハ
ヲ以テ西国分海軍アリ海ニ備ヘ(中ハ支那ニ居ル)
於テ佛西ノ商買損害ヲ受ル佛西軍勢
四百五十人ヲ以テ食料運送ニ妨ヲ受ケ
千人ヲ以テ佛レンコフ地名ノ地峡ヲ塞ク食料
備ハ始メ甚ダ困難ニ至ル
一テキリム地名北東ニ当ル所ニ刑務所

回国戦争弾丸数費ノ総計
一安政以来戦争年数ノ総計
一千八百五十四年第六月六日ノ夜(四月廿六日)佛蘭西人セバス
テポル地名ノ弾丸放費ヲ費ス但シ第六月七日ノ夜
四月廿六日ノ戦ハ上海ニ所謂青峡マメロ左ルト峡名
九ヲアートハーフエン港名ノ両砦ヲ押領ス峡喫咭利人ヲ
此時他ノ敵営ヲ討ル回国ノ滅亡ハ清国
中三千人有リ**亦**峡ハマラコフトーレニ咽喉ニ至シ回国
十八日ノ夜(七月)回国ヲ敗ル事ヲ靖国ヲ西国人打

数十山

一千八百四十四年第六月廿八日（支那年号 道光二十四年）デキリム（地名）
ヽヽ喫咭唎勢趨督ロルトカブラン（人名）病ヲ発シ死セリ
代テ「ゲチラール」（官名）シムブワン（人名）千八百四十四年（支那年号）の末
ミルワチトリンジトン（人名）之ヲ代ル跡職ヲ勉ムル時コレラ（病名）
到来デキルム（地名）ヲ流行シ英国サルテイニー勢ニ死亡多シ
喫咭唎及ビ仏蘭西勢ニ死亡ヲ免ル
一第六月十八日（支那年号 道光二十四年六月十八日）マチコトーレン（地名）ヲ回教徒ノ為盗
ミ却ル後第七月十六日（支那年号 道光二十四年六月十六日）の夜回教

西亜人到来逆害の結ヒ回教徒ヲ討撃ス
一第八月十六日（支那年号 道光二十四年七月廿四日）回教西亜人チヲリナヤ（地名）
要害ヲ剛強の軍勢ヲ以テ攻討ヲ烈ス
討撃ヲ為サルテイニー勢ニ威勢ヲ顕ス
十四第八月十七日（支那年号 道光二十四年七月廿五日）ヲ回教徒ハ折後セ
トボル（地名）の要害ヲ攻ル第九月廿六日（支那年号 道光二十四年七月廿四日）
カサセ（地名）ヲ攻撃ス格別勉強攻撃ス後ニ第九月八日（支那年号 道光二十四年七月廿六日）
七月の書ニバストボル（地名）ヲ討取リ今ハ攻ル
害第一の場所所謂マチコトーレン（地名）ハ勇猛防

戦ふ所佛朗西人分押領する所
一暎吉利人ハ外亞弗利加ニ於テ
殘なる地ハ僅ニ隅ト加勒多
一魯西亞人マラコフ地の要害滅亡したるを見て火藥
の方便に因る第一砦倉庫を一の爆烈
砲術に放火して長ストポル地名南方の地を全く
拂ひ港内のリーニー船も悉く焼拂ひ初花王西
倚リーニー船十九艘フレガット船十二艘スクーネル船
幷ブリック船十艘蒸氣船三十艘出来組西勢

二万人を以て組立たりしも殘る者僅に有り
魯西亞人も次第を立て砦の北方に引退き依三保
拔ひたり
一同月の方の死亡者二万人魯西亞人の死亡一万二千人
一都巴格國の元タン官名元帝デキルム地名より左ふ佛朗西
元帥ドマールシヤルノ官名の官名を授ケ二十万フランゲン銭名
を役料を授ける
一魯西亞人分取国たる亞細亞ヒルス砦に於て千八百五十五年
九月廿五日嘉永年八月十五日都巴格人と列国共に魯西亞

万四千人都て七千人死亡せり佛蘭西人は
害を以て分離四方に
一都て七千人ハエルセリコム地名に来る援兵を遣こと以て
居り各曹西亜人右援兵を襲い撃破せり
右の如き
一年経て九月に於て食糧尽き軍勢も四死亡多数
千八百五十五年第十一月廿八日十月十九日　衛兵曹西亜人に
降り
一セバストポル地名南方を討者等曹西亜人に北方
於て防禦いとし一度回教方に進撃し放火を仕掛
古回教方に新地陣営を築き放火を
防ぐ
一セバストポル地名の西討者府に全く回教方にて平ケ船場
を校市街に
一右に付ホデドテブル川名に於て回教方海軍がキムビルン
街に向ケ弾丸放発路迄街迄回教方に負入
一千八百五十六年第一月十二月十日オーストリヤ国
仲間西国英吉利国と講和条約を結ぶ
第十条に勉強約束曹西亜国と談判に及ぶ

一右ハオーストリヤ国ハ墨西亞国ニ隣接ス

第一

墨西亞国ハ諸侯領デドナウ川面ヲ守護ス配所の政事改正の義ヲ

第二

ベスアラビー地名の一分引渡ス事

第三

黒海ハ不倚中立ヲシテ土耳渚ニ墨西亞の砦及ビ武器国所竹ヲ多河国ヲ軍艦多ク出ス事ヲ

アドナウ川の口ハ限リ水上守リの防ヲシテ小軍艦ヲ居所ニ置ク事

第四

デホルテ地名天主教ヲ者一徒守護ス事

一西方墨方面條ニ黒海ヲ港ニ入ル官名ヲ書ス

度ヲ以ヲ見ルヲ諸島ニ要害接ス旨墨西亞国ハ

一右ハ墨西亞国ハ一徒ニ希望ニ応ヲ安ニ辞退ス

一右ハベスアウビー地名ヲ墨西亞領地分別ニ規定掛ヲ

以来極年西方諸国と移約の際の事を為者
其他と規定を為不倚中立等の事に承諾致候国事
備之義居住土地引渡以前に為ひ申候事
カルス（地名）及び墨西亜勢力国居住土地を返還
事

一仏国オーストリヤ政府に此度承諾致候オーストリヤ書
分第一期第四と存候第一月十八日（官名）エストルハセー人（名）シント
ヘートルスピュルク（墨西亜国の都府）を退去致候事
一第一月十七日（十二月十日）墨西亜国を以て国に定約書
して御国せ一方先知致

一第二月一日（十二月廿六日）漢判書ヲーチン（地名）に於て名判
致バレイス（都府）小集会に開きい此集会に墨西亜
国都ヒ格国掛朗西及び漢吹喇国サルデーニ国オース
テンレイキ国より百イス出も此度出会致し
一第三月末日と接義を止ミ致候事
一第二月廿日（二月廿三日）太文極致候事を止ミ致テキリム（地名）
り先初此他を経て聖ヒ国墨西亜普墨西亜ゲラル
（官名）集会致敵討程際に致し
一ふ文敵バレイス（都府）に於て是事場ぎる儀式を以て
集会を以て院と初費中出墨西亜引渡第三月三十日（墨西亜）

年二月廿四日 初和ト宣徇名判紙

一慶長尚一事ヲ為戦筆ヲ止ル回里ヲ為軍

一ヲ去年ペトロバウロウスキ地名ヘ参功ヲ攻紙ヲ手先ヲ

別風況ヲ去ル一千ヲ文千八百卒ヲ年第七月 ヲ和年三月九

又ヲ去ル卒ヲ年打撃ヲ之ヲ望ヲ変ヲ名ヲ諸蕃ヲ

破和紙

亜墨利加洲

一ヤリフォルニー地名今ヲ告和紙中金坑ヲ拘ヲ手ヲ極ヲ

ヲ之ヲ越ヲ千八百卒ヲ年年ヲ和ヲ三月ヲ地金属ヲ

米一国ヲ豊饒年ヲ

一メキシコ地名の告和ヲ左孔幸ヲ之ヲ乗ヲ丈ヲ拠一楼騒動

ヲ之ヲ

一コスタリカー地名ヲ小ヲ拠ヲ許多ヲ石炭坑銅坑岩ヲ紙ヲ金

坑ヲ内ヲ所ヲ出ヲ産ヲ冨隆ヲ之ヲ丈ヲ細坑ヲ亜極肝要ヲ

陸ヲ良善ヲ数向ヲ以ヲ用ヲ中

海軍

一先ヲ年ヲ告和ヲ以ヲ蘭国ヲ東印度ヲ蘭政羅巴

海軍ヲ船ヲ之ヲ

船號	記旗	砲數	船長ノ名
ハルラフウタ	咲咭利	六挺	フォルテスキュー

ビットルス	英吉利	拾二挺	バーテ	
コウリュス	同	拾四挺	ルヨンキンス	
コロマンドル	同			
ポルチット	同	拾七挺	フウセイト	
シンドル	同		エルレスマスドル	
ナンキン	同		ホンステウルト	
ビチュー	同	三十六挺	シルニコルソン	
ラセホルセ	同	拾四挺	ビルナルト	
セーピルレ	同	四拾挺	小總督 エルリオット	總督格 セグモウル 船將 ゲルソン
ウィンセストル	同	五拾挺		

シベイルレ　拂朗西　五拾挺　船將 マイツンニューフエ　總督格 ギユーリン 船將 フラス

アイルキテ　同　五拾挺

トムヤースエルスト　葡萄牙　二拾挺　小總督 ロベス

ヨルゲユオル　是班牙　四挺　同官 アンゲルレ

一唐國并東印度海角初ノ東海軍ヲ左ノ船ヲ率ヒ

船名	種類	船長ノ名		
フリンスフレテリッキテルチールフンテン	フレカット	スハヤルト	船將	
バレムバンク	同	ウサトルス	同官	
ボレアス	コルヒット	ケルセン	船手官	
フリンス穿ルレム フレテリッキ	タランスポルト	テロイルデ海ト	同官	

宣靜閣藏

デハーイ	ブリッキ	デゲルト	同官
ベイラテス	アトライース ブリッキ	ケレイ子	同官
レムバンク	スクーチル ブリッキ	ファンオムメン	同官
セールフ	同	ビラール	同官
サバルーア	同	ムート	同官
バンダ	同	モッルマン	同官
ランシール	同	ストルト	同官
ハタン	同	フウレン	第二等海方士官
アムバン	同	トハーメルルト	第二等同
エクモント	同	ファンウエイレ	同官

カノチルポー	ルーイ	カルレル	第二等士官
メテエサ	ストームコル ラット	ヘルクネイス	船将次官
アムストルタン	同	デイリース	同官
バクーフイヤ	スクルーフスチル	ツーセニルファンエイ	同官
モンタラート	ストームシキップ	アンタラー	第二等海方士官
ファシフイエス	同	ユーレンベーキ	同官
エトナー	同	カルルキリン	同官
サマランング	同	ビンケス	同官
セレベス	同	テマン	同官
ボルネオ	同	ストルト	同官

オンリヱスト	同	アブラス	同官
シュリナーメ	同	デアリーヤ第二等海方士官	
アトミラール フアキンスベルゲン		スベンヂカム	同官

一唐國并東印度海備北亜墨利加海軍八左之船ニ乗ル

船號	記旗	砲數	船長ノ名
レホニー	亜墨利加	拾八挺	スミット

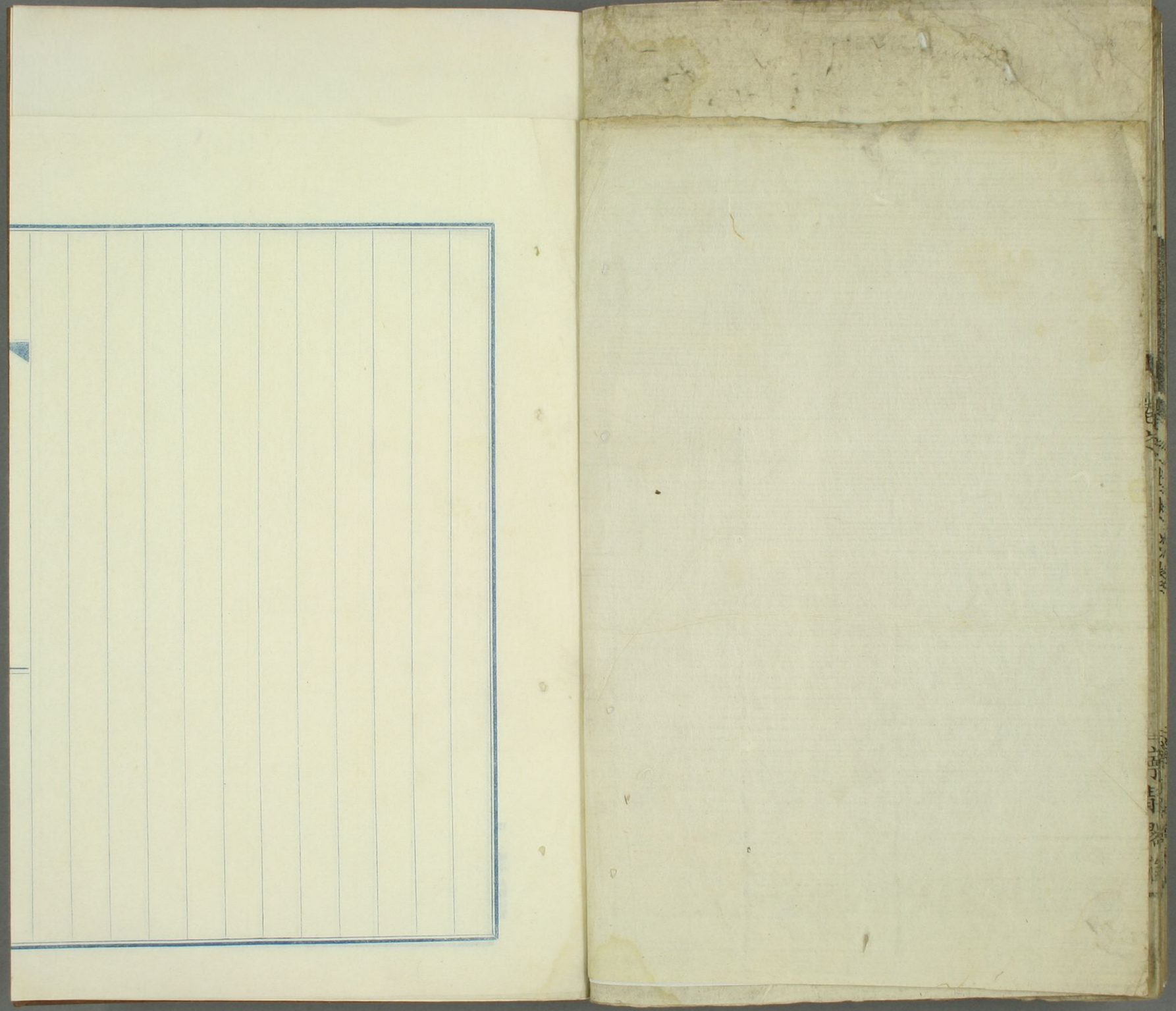
右之通和解いたし申候以上

巳七月

品川弥二郎 印

三島未然八郎 印

西吉左衛門 印



12
根岸 大塚特製